球竿體操

一九全身の運動（跳躍）

㊀左足を少しく上げ、右足で跳躍（テウヤクハネルコト）す、竿は高く頭上にあげる。㊁右足で跳躍。㊂左右の足をかへる、右足は、少しく後方にまげる、竿は前下方に下す。㊃左足で跳躍。これをくり返し、㊃㊁㊂㊃まで

二〇下肢の運動

㊀㊁㊂㊃四歩前進。㊀㊁㊂㊃四歩後退。㊀㊁㊂㊃四歩前進。㊀㊁㊂㊃右に廻り、元へかへる。㊀㊁㊂㊃四歩後退。㊀㊁㊂㊃四歩前進。㊀㊁㊂㊃左に廻り、四歩で後方に向く。㊀㊁㊂㊃右に廻り、四歩で後方に向く。㊀㊁㊂㊃左に廻り、四歩で元へかへる。

二一呼吸運動

㊀㊁㊂㊃しづかに竿を高く頭上に上げつゝ、体をそらし鼻より空氣を吸ひ入る。㊄㊅㊆㊇しづかに竿を前下方に下しつゝ、体を少しく前方に屈し、空氣をはき出す。これを、くりかへし四回。

高等小學圖畫

二學年
前期

色

一 自然の色（物の色）

われ〳〵の日常目にふれてをる色。
今日までに發見された數は三萬餘色。
この多くの色が、種々に變化の妙を極めて、われ〳〵に、愉快の感を與えてをる。

二 繪具の色

主として水彩畫に用ひる——二三十種もあり。
生徒の用意すべきものは、左の十二三色でよい。

- 赤
  - CRIMSONLAKE クリムソンレーキ（紅）
  - VERMILLION バーミリオン（朱）
- 綠
  - EMERALDGREEN エメラルドグリーン（淡綠）
- 黃
  - GAMBOGE ガンボージ（淡黃）
  - YELLOW OCHRE エロウ　ヂカー（黃土）
  - CHROME YELLDW クローム　エロー（黃）
- 青
  - COBALT BLUE コバルト　ブリユー（淡藍）
  - ULTRAMARINE オルトラ　マーリン（空色）
  - INDIGO インヂゴ（藍）
- 茶
  - VANDYKE BROWN バンダイキブラオン（鳶色）
  - SEPIA セピヤ（濃茶）
- 白
  - CHINESE WHITE チヤインスホワイト（白）

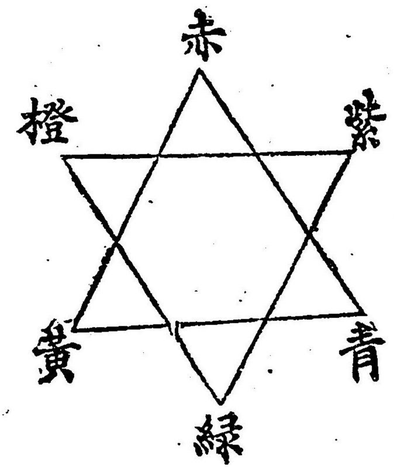
調和

調和

調和（ワテウ）とは、さうはうの釣合（アツリ）がよくて、きれいに、愉快に感ずることである。

三原色

赤、青、黃、——これを調合して、種々の色ができる。



この圖は、赤青を合して紫を生じ、青黃を合して綠を生じ、黃赤を合して橙となるを示す。

反對色

赤の反對色は綠。紫の反對色は黃といふやうに、上の圖に於て互に反對にある色をさしていふ

又、濃い色と淡い色、黑色と白色、熱色と寒色も反對色となる。

隣色

赤の隣色（リンショク）は紫と橙。紫の隣色は赤と青といふやうに、上圖に於て一つの色の兩方にある色をいふ

熱色と寒色

熱色＝赤、黃、橙
寒色＝青、紫、綠

赤の多い紫は熱色となり、黃の多い綠も熱色となる。

色の調和法

一 反對色をたくみに使用すること。

二 隣色を用ひて、調和をよくすること。

（イ）たとへば、赤色を用ひた時には、その反對色である綠色をたくみに配合し、その間に、隣色である紫、橙又は青、黃などの諸色を施して、ほどよく調へるのである。

（ロ）風景畫などでは、天を熱色にして、草木の色を寒色とすれば、暖かなやうな感じをあらはす。

（ハ）天を寒色に書いて、地面を熱色であらはしたものは、冬のおもむきをあらはすに用ひる。

色の分量

必要

繪具を合せる分量は、大そう熟練（ジユク）を要することであつて、この調合がほどよくできなければ、せつかくの畫も、まつたく「ゼロ」になつてしまうものである。

分量

しかし、何色何割、何色何分といふやうに規則正しく示すことはできない。これは多くの經驗と熟練とによることで、ただ、實地についていろ〳〵に研究するがよい。

注意

色の調合上で注意すべきことは、原色（赤、青、黃）を合せる時に、同じ分量に合せては、平凡（ボンヤ）なものとなつて面白味も、おかし味も少いものとなるから、一つ色を根本にして、他の一色を種々の分量に加へ合せ、思ふ色を求めるのである。

かやうにして得た色で、畫面の調和をはかり、いき〳〵したた畫ができたならば、これこそ、たくみな色調（テウキ）だといふことができるのである。

注意

圖案には、それ〳〵の方式のあるものであることは、三學年で述べておいたが、繪はがきにも、繪畫と圖案との二種がある。

圖案の基礎（ソキ）は、實物寫生（ジツブツシヤセイ）であることは無論であるが、こゝに注意すべきことは、繪はがき圖案は、他の圖案のやうに、他の物を裝飾するためのものではなくて、繪はがきそのものゝみで、圖案を面白く示さねばならぬのであるから、繪はがきとする圖案は、繪に近いものゝ方がおもしろい。

圖案と繪はがき

繪はがき圖案の例

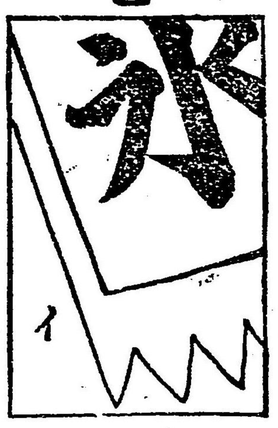
例一

こゝに示した甲圖では、ちょーど、旗の標本であるかのよーに、何の變化もなく、從って少しの面白味もないから、こんな圖案は、一厘の價値もない。

ところが、同じ氷屋の旗を書くのでも、乙圖のよーに書いたならば、風の吹いてをることも思はれ、ひら〳〵動いてをるのが見へる心地がして、涼しい氣も起り、畫としての興が深いものである。

甲

乙

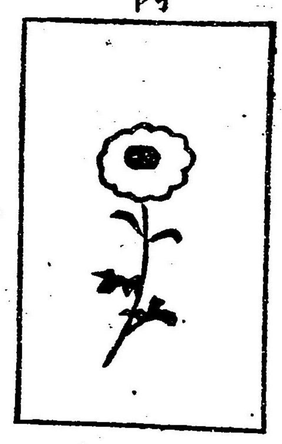


これが、畫の働きといふものである。

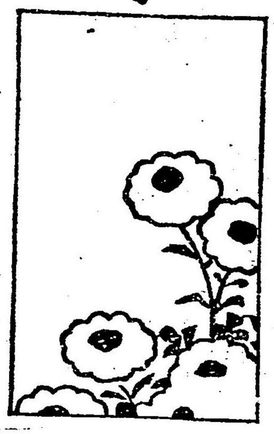
なほ、(イ)の所は、緑色にして、樹木の葉が繁ってをる所と見るもよく、青にして、天の色としてもよい。

例二

丙



丁



丙圖の菊花は、ちょーど甲圖と一樣で、あまり單調(タンチョー)で、何の面白味もないが、丁圖のよーに書いたならば、多く咲きみだれた花園も想像せられ、いかに美しいかを思ひやられるので、そこに、書いてなくても、蝶の飛びまはってをるのまでも見えるよーな氣がする。

色彩透視畫法

説明

色彩透視畫とは、物の遠いと近いとにより、又、太陽、空氣の工合によつて、その物の色彩陰影(エイン)に、變化を生ずるものであるから、この點に注意して研究することである。

その例

少しく遠くなれば　赤い花＝うすい紅色となる。
　　紫の花＝不明瞭になる。

黄色を含んだ綠色　遠くなれば、青味勝となる。
　　なほ遠くなれば全く青又は紫。

必要

遠近を區別し、實物に變らないやうな畫を書かうとするには、もつとも必要なことである。この心得のないものは、草木の葉は、いつでも綠色であり、水は青く、遠い山も青いにきまつてをるとばかり思つてをるから、實物の寫生も、ほんたうのものはできないで、遠いと近いとの區別がないものになつてしまう。であるから、實地について、光線の强弱と空氣のもやうとによつて起る自然の現象を研究せねばならぬ。

明治四十四年二月十五日訂正印刷
明治四十四年二月二十日訂正發行

著作權所有

著作者　普通學講習會
發行者　大塚宇三郎
大阪市南區安堂寺橋通四丁目二三四番邸
發兌元　田中宋榮堂
大阪市南區心齋橋通安堂寺町南入
印刷者　吉田由治郎
大阪市西區阿波座二番町一二五番邸

尋常　用年五期前　用年六期前　用年五期後　用年六期後
高等　用年一期前　用年二期前　用年一期後　用年二期後
定價各金十二錢
郵送料各金四錢

普通學講習會著作

尋常高等 綴方教科書

尋常科 三學年用 四學年用 五學年用 六學年用
高等科 一學年用 二學年用

定價各拾錢 郵送料各四錢

太郎「綴方は、なか〳〵むつかしいものですが、どうしたらじやうずになれるでせうか」？

次郎「それは、できるだけ、たくさんにつくることと、たくさんによむことださうです」！

太郎「さうですか、それでは、どんな本をよんだらよいでせう」？

次郎「それは、大阪の田中宋榮堂から發行してゐる綴方教科書といふ本が一ばんよいとこのあひだ先生がおつやいました」！

太郎「大きにありがたう、それでは、すぐにかひませう」!!

地理研究會著作

改訂增補 小學地理附圖

（大形）

尋常科用 一冊
高等科用 一冊
特價各廿七錢
郵送料各六錢

文部省で出來た小學地理附圖は、極て簡單にしてありますから、教科書にあることより外の事を見やうとすれば、たちまち差支ます「ア、も少し詳ければよいなあ」といふ人が非常に多い。また實際地圖はどの家にも是非なくてはならぬ本です。そこで此地圖は（一）本を大形として大いに詳し（二）百數十個の名勝寫眞板を入て、居ながら各地の風景を見（三）最も新しい諸種の統計表を添てありますから、眞に地理を研究せうとする諸君は元より、中等ものも是非備置べき最良の地圖であります。そこで文部省の地圖になつた人でも、なほ此地圖を用意せられたならば、勉學上のふる大なることゝ信じます。

小學地理附圖 3 524

小學校兒童用參考書類

小學地理問答 日本之部全一冊 定價拾錢郵稅四錢

小學地理問答 外國之部全一冊 定價拾錢郵稅四錢

小學地理問答 高等二年用全一冊 定價拾錢郵稅四錢

日本歷史問答 尋常科用全一冊 定價拾錢郵稅四錢

日本歷史問答 高等科用全一冊 定價拾錢郵稅四錢

算術問答 尋常小學 五年六年用全二冊 價各拾錢郵各四錢

算術問答 高等小學 一年二年用全二冊 價各拾錢郵各四錢

小學農業問答 高等一二年用二冊 價各拾錢郵各四錢

小學理科問答 尋常五六年用二冊 價各拾錢郵各四錢

小學理科問答 高等一二年用二冊 價各拾錢郵各四錢

日本歷史附圖 小學 尋常高等共用一冊 價拾五錢郵稅四錢

綴方教科書 尋常小學 三四五六年用四冊 價各拾錢郵各四錢

綴方教科書 高等小學 一年二年用全二冊 價各拾錢各郵四錢

小學珠算書 尋常科用 四五六年用全三冊 價各八錢郵各貳錢

小學珠算書 高等科用 一年二年用全二冊 價各八錢郵各貳錢

水彩畫手本 高等小學 附畫法心得全一冊 價貳拾錢郵稅四錢

發行元 大阪市南區心齋橋通安堂寺町角へ入 田中宋榮堂

賣捌所全國各地書籍店